

卒業論文

# 日本の産業集積地評価への試み

Attempt of “Japan industrial clusters” revaluation

提出日 2015年1月29日

指導教授

齋藤正武 准教授

中央大学商学部

経営学科 11C1108102C 陳 子龍

商業・貿易学科 11C3143053K 柴田 知廣

## 日本の産業集積地評価への試み

中央大学商学部

斎藤正武ゼミ

柴田知廣

陳子龍

日本には技術力の高い中小企業が多くある。多くの中小企業は、同じ産業に携わる同士で、地理的に集積し、産業構造を構築しているため、一つの企業が受注した案件を他企業と分業するなど、企業同士の繋がりも強い。この形態を産業集積と呼ぶ。

しかし、現在、多くの中小企業は苦戦を強いられている。海外の安価なメーカーの台頭、後継者不足、少子高齢化などの問題で、廃業する中小企業が多いのだ。一方で、既存の大企業の行き詰まりにより、中小企業、特に新規開業企業が注目を集めている。中小企業は、頻繁な参入と退出によって市場競争を活発化し、多くの雇用機会を出し、技術面や経営面でも多様な革新を通じて経済活力を生み出すからである。また、中小企業は地域に密着していることが多く、地域の活性化にも欠かせないのである。各地域には、それぞれに強みの産業があり、自治体も地場産業を盛り上げようと、中小企業に対して、積極的支援を行っている。

以上のことを踏まえ、本研究は日本全国の各地の産業集積地域に注目し、研究を行うこととした。過去の産業集積地域を比較した文献を調査した結果、①全国各地の集積地の地域間で比較をしている文献がないこと、②産業集積地域を数値的に比較しているものの、図等を用いて理解しやすい形式で比較されているものもなかった。従って、本研究は今後新規開業を考える人たちに向けて、産業集積地域を選定する際の支援になるために、簡単に産業集積地域の比較できる可視化に向けた地域の評価（点数化）の仕組みと具体的な図示化を行った。

具体的には、日本全国 12 個の産業集積地域に注目し、「産業規模」「自治体の取り組み」「地域での環境」という評価項目を作成した。そしてそれら 3 項目に当てはまる定量的、定性的データを集めることで、12 地域を比較し、点数化を行った。データを集める際は、統計データや白書での定量データはもちろん、自治体にもアンケートを行い収集した。3つの評価項目毎に点数を出し、点数からイメージが湧く図を用いて、各地域の状態が一目で分かるようにした。

このような可視化をした結果、広島地域、東大阪地域、豊田地域、東京都城南地域などの産業集積地域が他の地域より状態が良いことが図から読み取れた。今回の課題として、評価項目である「自治体の取り組み」について、定量的な指標がなく、考えていたデータが集めにくかった。より精度を求めるには、時間をかけた緻密な情報が必要になると考えられる。